

## EAR-BC2012 極寒のソウルで（公開版）

佐藤俊哉

2012年2月1日（水）初訪韓

今日から IBC2012 の宣伝に韓国に行くことになった。韓国に行くというと、なぜか恵子先生も一緒に行くと言いだし、急遽宿泊の部屋をスイートにしてもらう。12時50分関空発のアシアナ便だが、MK スカイゲイトシャトルは8時20分に迎えにくるので、ちょっと早いんじゃないのと思いつつも7時に起きて朝食を済ませる。ところが、なんと10分前にMKさんがきてしまい、あわてて支度して下に降りる。車内は寒く、体調があまりよくないので寝たふりをするがあまり寝られない。

絶対早く着き過ぎだと思っていたらやっぱり10時20分には関空に到着。アシアナ航空にチェックインし、「3人ですか」といわれたので、『3人そろわないとだめだといわれるのか』と思い「2人です」と言ったため後々に禍根が残ってしまった。寒水先生に教えてもらった泉州銀行の割引券で25000円をウォンに両替、なんと33万ウォンほどになり、急にお金持ちになった気分。

まだ早いが出国の手続きを済ませゲートに向かう。ゲートに行くシャトル前のスタバにみな群がっていて、われわれもホワイトカフェモカとココアを買ってゲートに行くとなんのことはないそこにはタリーズがあり、がらがら。ゲートで座って、やれやれとココアを飲むと、これがぬるくてこれまた怒りがこみ上げる。カフェモカもぬるいといっていたので、関空では飲み物の温度を下げて売るきまりでもあるのか。

来週は専門職学位課程の課題研究発表会で昨日は医療統計の4人の発表練習、帰国して土曜も発表練習の予定。発表会で主査があたっている課題研究を読みはじめたが、なかなか入り込めず行ったり来たりしていると寒水先生がやってきた。ソウルまで2時間ほどのフライトにもかかわらず機内食が出るという。まあそんな機内食に期待もできず関空でお昼を食べたかったのに、恵子先生はもったいないからお昼は食べなくていいというので機内食で済ませることに。

搭乗すると寒水先生の席は違うところで、寒水先生「あれー、なにミスったのかなあ」と不思議がっているが、それはわたしのせいです。離陸してほどなく機内食サービスがはじまり、海苔巻、そば（なぜかピンク色）、玉子焼き、枝豆のちぎり揚げ、オレンジで、お昼を抜いていなければとても食べられたものではなく、さすがの恵子先生も「これを一食損したというのか」と憤慨している。そのとおりです。時間的には札幌とおなじくらいで、またまた課題研究を読もう読もうとしているのであるが、睡魔に襲われ爆眠してしまう。おかげで少し気分がよくなった。

予定通り2時間でインチョンに着く。みなおなじ顔をしている人たちがばかりなのに、漢字や英語表記がなくハングル表記のみなので周りの文字がまったくわからず、話している言葉も

わからず欧米に行くより違和感を覚える。寒水先生は江南のラマダソウルに泊まりなので 6時半にラマダソウルのロビーに行くことにして空港で別れ、コンビニで水をゲットして、ソウル大行きの 6017 のバスを探す。ほどなくバスはみつかったものの 5 分前に行ったばかりで、次は 4 時 8 分まで 30 分近くこない。外は寒くとても待ってられないので空港内でじっと待つ。

しばらくするとバスがやってきて、予定通り 70 分で会場で宿泊施設の **Seoul National University Hoam Faculty House (HFH)** に到着。ツインのジュニアスイートを予約していたのに、通された部屋は 8 人の会議室、トイレが 2 つ、ベッドルームにはソファセットがついた立派過ぎる部屋で、あれほどツインと頼んだのに肝心のベッドがダブルなので困ってしまう。しかし豪華な部屋なので恵子先生は喜んでいて、ダブルでもいいじゃないといっている。

というわけで 6 時ごろフロントにでかけると、部屋のある建物とフロントの建物は離れていて、坂を下っていくのに路面が凍結していて危ないったらない。フロントでラマダソウルまでタクシーを頼み、係の人がドライバーにこれを渡せとハングルのメモをわたされる。ところが道が渋滞ですごく、ラマダまで 50 分もかかってしまい、悪いことにケータイを部屋に忘れてきたので、寒水先生はさぞやきもきしていることだろうがどうしようもない。それでもタクシー代は 15000 ウォン、ソウルのタクシーは安い。ようやくラマダに着き、ラマダには日本語が流暢なスタッフがいるのでレストランを予約してもらい、再び三人でタクシーに。今度はブラックタクシーで普通のタクシーよりちょっとお高いらしい。ホテルの近くなのだが、もーれつに寒くてとても歩くところではない。(が、ソウルの人たちは普通に歩いているのでびっくり。)

「バウゴケ」という全羅南道式の韓定食のレストランで個室に通される。従業員は日本語も英語も通じないので難渋するものの、ともかく 45000 ウォンの定食とビールを頼む。と、ものすごい勢いで料理が運ばれてくるではないか。途中からマッコリにして、こちらもひたすらものすごい勢いで食べ続ける。部屋が寒かったのと、ちょっとずつでも総計するとかなりの量が出てきたので、食べ過ぎと寒さでまたちょっと調子悪くなってしまった。7 時過ぎに着いて 9 時ごろ食べ終わりそれじゃあそろそろ、とタクシーを呼んでもらったのだが、寒さでタクシーが予約できないので、外で拾って帰れとのこと。外国でえーっ、という感じであるが、店員さんがラマダに電話してくれてラマダの日本語スタッフと寒水先生が話したが、やはりだめなのでタクシーを拾って帰れとのこと。しかたなく外に出ると想像を絶する寒さで、もうだめだと思った。

しかし幸いタクシーはすぐつかまり、寒水先生をラマダで降ろして HFH に向かってもらう。最後大学についてからちょっとわからなくなったが、すばらしいカーナビのおかげで 40 分くらいかかってぶじに HFH に到着した。寒くて暖房の強さを最強にする。熱いシャワーを浴びてようやく暖まり人心地ついた。ベッドには薄手のコンフォーター 1 枚しかなく心配だったが、なんだか二人とも疲れてしまい、12 時前に寝てしまう。寒いということなくまあまあ普通に寝られた。

2 月 2 日 (木) EAR-BC2012

8 時少し前に起きて支度し、きのう食べ過ぎだったので朝はコーヒーだけに。部屋に紅茶、

お茶、マキシムのインスタントコーヒーとなんだかわからないハングルのパックがあったので、ハングルのがコーヒーだろうとあたりをつけ開けると、ドリップではないものの一人用のちゃんとしたコーヒーを抽出できるもので感心した。恵子先生はツアーに電話して午後のに予約できたので、満足してまったりしている。9時になったので、すぐ隣のコンベンションセンターに。前 IBS 会長で現副会長の Kaye Basford 先生はもう来ていて、昨年行ったインドの方たち、マニパルの Sree Nair 先生、インド支部会長の Venkatesan 先生にあいさつする。みなさん信じられないくらい寒いと言っているが、それは間違いなく、韓国支部会長の Ho Kim 先生はソウルは 50 年ぶりの寒さだと言っていた。東大 大橋先生はすでに来ていて、京大病院 手良向先生、保健医療科学院 高橋先生がやってきた。寒水先生、野間くんも到着しポスターを貼っている。

コーヒーを飲み飲み、韓国支部の方たち、チャペルヒルで一緒だった Tae Rim Lee 先生、インドの方たちなどと話しているうちにいつのまにかセッションがはじまった。なんかゆるーい会である。最初のオープニングセレモニーはひとり 10 分と言われていたのだが、IBS 副会長 Kaye さん、韓国支部会長 Kim さん、わたし、中国グループ Zhang 先生、インド支部会長 Venkatesan さん、台湾の Chen 先生で 30 分の配分なので、どうみても一人 5 分でいっぱい。Kaye さんが 10 分のまましゃべったのであとは押し寄せ。わたしは 5 分で準備してきたので予定通り 5 分で終わり結構うけも取ったと思うが、あの方たちはスライドの準備もなくぼそぼそしゃべるだけであった。



次のキーノートは韓国の偉い先生がバイオシミラーの話で、米国に長いこといって NCI など  
で働いていたとのことであった。その次は大分大 和泉先生がオーガナイズの日本支部の  
招待セッション 1「ネステッド・ケース・コントロール研究」、宮崎大 藤井先生、和泉さん、京  
大 田中佐智子先生の講演。お昼はフロントのあるビルの地下でビビンパ。寒いのでうちよ  
っとあったかいものだとよかったのだが、なかなかおいしいビビンパだった。今回日本人参加  
者は多く、30 人近くの大選手団である。なぜかわたしは招待だからと外国人ばかりの席に拉  
致され、しぶしぶヨコ飯となる。

食後に(名前は分からないが)ソウル大(タベのタクシーの運ちゃんは「ソウルで」と発音し  
ていた)統計学科の先生が統計学科を案内する、というので、Kaye さん、大橋先生、台湾の  
Chen さんともに拉致される。なんでもソウル大はゴルフコースだったところを買い上げてキャン  
パスにしたそうで、山の中にある広大なキャンパスの中、どこかどうなっているのか皆目見  
当がつかない。統計学科の建物の中をあちこち連れまわされ、おこしのような韓国の伝統菓  
子の巨大なものを食べさせられ、ほうほうの体で会場に戻ってくる。

午後は中国の招待セッション、台湾の招待セッション、韓国の招待セッションと続く。が、  
委細構わず仕事をし続ける。恵子先生に何度かショートメールを送るものの、返事がなく心  
配である。最後のセッションは一般セッションで、大阪大 上坂先生が2つ口演、浜田研にい  
た杉谷くんと、全員日本人のセッション。森川さんの司会で始まり、杉谷くんの英語の講演は  
たいへん上手だった。野間くんの姿がみえず、あとで寒水先生に聞くと体調が悪くて会場に  
いられなかったようだ。

6 時からのディナーの前に韓国の伝統音楽のデモンストレーションがあるとのことで、恵子  
先生に学会会場にくるようにメールする。ようやく外のポスターのところにいると返事があつた  
ので、会場でしばし伝統音楽を聴く。伝統音楽は、琴、横笛、鼓のような太鼓など日本のも  
のにそっくりなのに、音楽自体はまったく違うのが不思議。演奏はソウル大の学生さんたちと  
のこと。



懇親会は昼食と同じ会場で、やっぱり招待客席に拉致され、ホストの方たちは韓国語でおしゃべりしているので、結局われわれが Kaye さんの相手をさせられることに。ときどき Tae Rim さんが話に加わる。Ho Kim さんはチャペルヒルで学位をとったとのことのでびっくり。このレストランの食事はなかなかおいしく、ミニ春巻き、骨付きカルビの煮込み、八宝菜みたいなもの、キムチ、白キムチ、春雨の辛いもの、などをうすーいビールとともにいただく。白キムチが酔っぱくてちょい辛で気に入った。

中国の Zhangさんと次回の EAR-BCについて少しお話する。順番から行くと次は中国なんだが、中国は支部ではなくグループでまとまりが薄い。なにか別な会議とジョイントでなら開催できるかもしれない、とのこと。だめなら無理せず、2013年は一回飛ばして2015年に日本で開催でもいいよ、と言っておく。Kayeさんがフードがおいしいのでお代わりに行くと、恵子先生とおかわりしに。わたしも炒飯みたいなものと、恵子先生がおいしいといっていたプルコギみたいなものをおかわりし、最後に韓国の微妙なデザート2種と小型のケーキを食べて満足した。ビールは2缶のみで、まだ木曜なのと海外なので自重し、9時ごろ部屋に戻る。みなさん三々五々帰って行って、日本人も残っているのは HFH に宿泊の人たちだけ。

恵子先生はツアーでカモだと思われたのか、いろいろと売りつけられたようで、韓国海苔、キムチ、ごま油など日本でも売っているものを「韓国のは違う」とだまされて買わされたようだ。ツアー代金は2500円くらいなので、おみやげを買わせて上がりを取るシステムのよう。

熱いシャワーを浴び、本を読んでいたものの眠くなって12時ごろ爆眠。

## 2月3日(金) もう帰国

8時に起きて支度する。恵子先生はぐっすり寝ているので、会議室でひとりコーヒーを飲み、恵子先生が昨日屋台で買ったという怪しげな揚げパンみたいのを食べる。いつの間にか9時を回っているのであわてて着替えて会場に。今朝は大橋先生がオーガナイズした日本支部の招待セッション2で、大橋先生、手良向さん、横市 田栗先生の発表。大橋先生はいつものマシンガントーク、手良向さんはこの間 KBS (京都 Biostatistics セミナー) で話した内容、田栗さんは因果推論の話。

次の講演は途中で失礼してチェックアウトしに部屋に戻る。12時少し前にフロントに行き、チェックアウトして荷物を預かってもらう。しばらく待っているとみなさんがぞろぞろやってきたので、恵子先生とともに地下のレストランにお昼を食べに。今日は温かいカルビタンで、おとなしく座っているとやっぱり Tae Rimさんと台湾の Chen(陳)さんがやってきてまたまたヨコ飯。陳さんは統数研に何度もいっているらしく、なぜか京大医療統計のホームページを見ていて、日本語は読めないそうだが、おかあさんに翻訳してもらって知っているとのこと。

カルビタンにご飯を入れてクッパ状にして食べるととてもおいしく、キムチをおかわりする。午後は会場で仕事するふりをし、ほどなく3時半が近づいてきたので、Kimさんにごあいさつし、寒水先生と三人でインチョン行きのバスに乗り込む。やっぱり市内は渋滞で、空港まで80分くらいかかって到着。カウンターはごったがえしているのでも早めに来てよかった。なにや

らわからないチェックインシステムで、またまた寒水先生だけ別になってしまい、結局カウンターで三人並びの席に変えてもらう。

出国してデューティーフリーで教室へのおみやげを探す、ロッテのチョコばかりで、なかなかこれといったものがない。いろいろ物色したあげく、ゴディバのチョコレートはまあ日本でも買えるがほかに土産がないのでしようがないだろうと、それに韓国のお菓子を買って、韓国のお菓子を食べないとゴディバを食べられない、というシステムにしようということになって韓国の伝統菓子とゴディバのトリュフをおみやげに。その後、寒水先生とゲートで待ち合わせることにしてぶらぶらしていると北大 伊藤先生と大庭先生に出くわした。なんでも千歳行の直行便があるそうで、すぐに出るらしくあわただしく去っていった。ゲート近くの店で、ウォン消費のためと称してハイネケンの生を飲む。

ゲートに行くと寒水先生と手良向さんがいて、手良向さんは関空に泊まって次の日千里中央で講演とのこと。飛行機はつつがなく出発し、帰りは 1 時間半くらいのフライトなので上昇の途中で機内食が配られ、わたしの機内食はテーブル上からずり落ちてかけている。みなさん機内食をあふあふ食べており、恵子先生と寒水先生もずんずん食べているではないか。わたしは飲み物のサービスが来た時にビールを頼み、きゅうりのキムチ、魚のから揚げ、かにかまの天ぷらみたいなのをつまみにひとりビールを飲む。ご飯の大半は残し、恵子先生にそっと「うちに豚まんあったよな」と確認する。

飛行機は予定通りに関空に到着、MK さんに行くときまだ別な便の人を待つ、というのでトイレに行って戻ってきたらもう誰もいない。恵子先生が早く早くといっていて、なんのことはない、自分が律速段階だ。MK の新しいジャンボタクシーは席が狭く、腰が痛くなってしまう。2 時間かかって京都に着き、寒水先生が先に降りて、われわれは 11 時半に到着。

ソウルは寒かったけど、食べ物はおいしかったし今度は暖かいときに行きたいね、と意見が一致した。なんにしても 2 時間で着いて時差なし、というのがいい。